

看護の核となる実践能力：看護師が論理的な思考と正確な看護技術を基盤に、ケアの受け手のニーズに応じた看護を臨地で実践する能力

定義	I		II		III		IV		V		
	JNA版ラダー	自施設のラダー	JNA版ラダー	自施設のラダー	JNA版ラダー	自施設のラダー	JNA版ラダー	自施設のラダー	JNA版ラダー	自施設のラダー	
レベル毎の定義	基本的な看護手順に従い必要に応じ助言を得て看護を実践する	基本的な看護手順に従い必要に応じ助言を得て看護を実践する	標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する	標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する	ケアの受け手に合う個別的な看護を実践する	・発達段階や疾患・病態に応じて個別的な看護を実践する	幅広い視野で予測的判断をもち看護を実践する	・幅広い視野で予測的判断をもち看護を実践する	より複雑な状況において、ケアの受け手にとっての最適な手段を選択しQOLを高めるための看護を実践する	より複雑な状況においても、新生児や家族にとっての最適な手段を選択し看護を実践する	
目安とする経年数		1年		2-3年		5-6年 →レベルⅢをクリアしていることがCNになる要件くらいのレベル		7年～		10年～	
成長の視点		まず患者さん家族自施設や自部署の役割や機能を知らうとして		周りもみえてくる役割機能を理解はできる		部署全体の課題がわかる		部署全体の方針課題をふまえて自ら何をすべきかわかってくる		医療看護の動向をふまえて、施設や部署が進む方向をわかってそれに貢献できる行動がとれる	
ニーズをとらえる力	【レベル毎の目標】	助言を得てケアの受け手や状況(場)のニーズをとらえる	助言を得て、新生児と家族の状況やニーズをとらえる	ケアの受け手や状況(場)のニーズを自らとらえる	新生児と家族の状況やニーズをとらえる	ケアの受け手や状況(場)の特性をふまえたニーズをとらえる	・対象となる新生児や家族の特性をふまえたニーズをとらえる ・チームとして個別的な看護を実践するために必要な情報を収集することができる→協働する力へ移動	ケアの受け手や状況(場)を統合しニーズをとらえる	対象となる新生児や家族の全体像をとらえニーズをとらえる	ケアの受け手や状況(場)の関連や意味をふまえニーズをとらえる	新生児や家族の状況を統合しうえて、そこどのような意味があるかを見極め、最も重要なニーズをとらえる。
	【行動目標】	□助言を受けながらケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる □ケアの受け手の状況から緊急度をとらえることができる	□新生児看護に必要な基本的知識(呼吸・循環、体温、感染、栄養、水分代謝、など)に関する知識を習得している 助言を受けながら、新生児および家族のケアを実践するために必要な情報を収集することができる(診療録など) □助言を受けながら、新生児および家族のケアの問題点や観察点を抽出し、優先順位を決定することができる □新生児の状況から状態の変化	□自立してケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる □得られた情報をもとに、ケアの受け手の全体像としての課題をとらえることができる	□新生児および家族のケアを実践するために必要な情報を収集することができる(診療録など) □支援をうけながら退院後の生活も視野に入れて情報を収集することができる □新生児および家族のケアの問題点や観察点を抽出し、優先順位を決定することができる □新生児の状況から状態の変化に気づき、自らの判断も含めて、報告することができる	□ケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から個別性を踏まえ必要な情報収集ができる □得られた情報から優先度の高いニーズをとらえることができる	□新生児および家族のケアを実践するために必要な情報を系統的に収集することができる(診療録など) □退院後の生活も視野に入れて情報を収集することができる □新生児および家族のケアの問題点を見極め、抽出し、その個別性を考慮して優先順位を決定することができる □得られた情報を看護方針に反映させることができる □新生児の状況から状態の変化を予測・判断し、適切な対応が考えられる	□予測的な状況判断のもと身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる □意図的に収集した情報を統合し、ニーズをとらえることができる	□新生児および家族のケアを実践するために必要な情報を退院後も含めた幅広い視野で予測的判断を持ち収集することができる(診療録など) □意図的に収集した情報からニーズをとらえることができる □新生児の状況から状態の変化をより早期に予測・判断し、適切な対応が考えられる	□複雑な状況を把握し、ケアの受け手を取り巻く多様な状況やニーズの情報収集ができる □ケアの受け手や周囲の人々の価値観に応じた判断ができる	□身体的、精神的、社会的等様々な側面で複雑で多様な状況にある新生児や家族について、看護上の課題やニーズをこれまでの経験や習得した知識・技術をもって直感的に把握できる □家族や周囲の人々の価値観を直感的に捉え自らどのように行動すべきか考えることができる。
ケアする力	【レベル毎の目標】	助言を得ながら、安全な看護を実践する	助言を得ながら、安全な看護を実践する	ケアの受け手や状況(場)に応じた看護を実践する	新生児と家族の状況に応じた標準的な看護を実践する	ケアの受け手や状況(場)の特性をふまえた看護を実践する	新生児と家族の個性を考慮した看護を実践する	様々な技術を選択・応用し看護を実践する	最新の知見を取り入れた創造的な看護を実践する	最新の知見を取り入れた創造的な看護を実践する(ペナーの看護論を参照)	
	【行動目標】	□指導を受けながら看護手順に沿ったケアが実施できる □指導を受けながら、ケアの受け手に基本的援助ができる □看護手順やガイドラインに沿って、基本的看護技術を用いて看護援助ができる	□新生児看護に必要な基本的技術(呼吸・循環、体温、感染、栄養、水分代謝、などのケア技術)を習得している □支援をうけながらファミリーセンターケア及びデベロップメンタルケアの理念に基づき標準看護計画に沿って必要なケアが安全に実施できる □支援を受けながら、ファミリーセンターケアの概念に基き、基本的な育児(抱っこ、おむつ交換、ボトル授乳、直接授乳など)を家族が習得できるように支援する □急変時は、助言を受けながら指示通りに行動できる	□ケアの受け手の個性を考慮しつつ標準的な看護計画に基づきケアを実践できる □ケアの受け手に対してケアを実践する際に必要な情報を得ることができる □ケアの受け手の状況に応じた援助ができる	□ファミリーセンターケア及びデベロップメンタルケアの理念に基づき標準看護計画に沿って必要なケアが安全に実施できる □基本的な育児(抱っこ、おむつ交換、ボトル授乳、直接授乳など)を家族が習得できるように支援できる □急変時は、リーダーの指示のもと各種処置が実施できる	□ケアの受け手の個性に合わせて、適切なケアを実践できる □ケアの受け手の顕在的・潜在的ニーズを察知しケアの方法に工夫ができる □ケアの受け手の個性をとらえ、看護実践に反映ができる	□個別的な看護計画の立案・修正ができる □発達段階や疾患・病態に応じて個別的なデベロップメンタルケアが実施できる □ファミリーセンターケアの理念及び基本的概念(尊厳と尊重 情報共有 参加 協働)に基き、看護計画を立案・実施できる □支援をうけながら退院後の生活も視野に入れて個別的な指導ができる □急変時は、各種処置が実施できる □支援を受けながら、急変時のリーダー役割を果たすことができる	□ケアの受け手の顕在的・潜在的なニーズに応えるため、幅広い選択肢の中から適切なケアを実践できる □幅広い視野でケアの受け手をとらえ、起こりうる課題や問題に対して予測的および予防的に看護実践ができる	□様々な技術を選択・応用し看護を実践する ・チームとして個別的な看護が提供できるように調整する→協働する力へ？ □新生児・家族の顕在的・潜在的なニーズを把握し、看護計画の立案・修正・実践ができる □発達段階や疾患・病態に応じて長期的な視点をもって個別的なデベロップメンタルケアが実践できる □ファミリーセンターケアの理念及び基本的概念(尊厳と尊重 情報共有 参加 協働)に基き、長期的な視点をもって看護計画を立案・実施できる □退院後の生活も視野に入れて個別的な指導ができる	□ケアの受け手の複雑なニーズに対応するためあらゆる知見(看護および看護以外の分野)を動員し、ケアを実践・評価・追求できる □複雑な問題をアセスメントし、最適な看護を選択できる	□新生児や家族の複雑なニーズに対応するためあらゆる知見(看護および看護以外の分野)を動員し、ケアを実践・評価・追求できる □複雑な状況を事前にとらえ、防ぐことが可能な急変は起こさない
協働する力	【レベル毎の目標】	関係者と情報共有ができる	助言を受けながら、必要な情報を関係者と共有することができる	看護の展開に必要な関係者を特定し、情報交換ができる	必要な情報を関係者と共有することができる	ケアの受け手やその関係者、多職種と連携ができる	多職種と連携ができる	ケアの受け手を取り巻く多職種の力を調整し連携できる	関連する多職種の力を調整し連携できる	ケアの受け手の複雑なニーズに対応できるように、多職種の力を引き出し連携に活かす(ペナーを参照)	
	【行動目標】	□助言を受けながらケアの受け手を看護していくために必要な情報が何かを考え、その情報を関係者と共有することができる □助言を受けながらチームの一員としての役割を理解できる □助言を受けながらケアに必要と判断した情報を関係者から収集することができる □ケアの受け手を取り巻く関係者の多様な価値観を理解できる □連絡・報告・相談ができる	□助言を受けながら新生児と家族のケアに必要な情報を、関係者に連絡・報告・相談できる □助言をうけながら、チーム医療・看護におけるメンバーシップを理解し、レベル1スタッフとして求められる行動がとれる。 □関係者の役割や様々な立場での考えに気づき理解できる。 □カンファレンスに参加する	□ケアの受け手を取り巻く関係者の立場や役割の違いを理解しうえて、それぞれ積極的に情報交換ができる □関係者と密にコミュニケーションを取ることができる □看護の展開に必要な関係者を特定できる □看護の方向性や関係者の状況を把握し、情報交換できる	□得られた情報を適切な方法で共有することができる □必要な関係者がわかり、自らコミュニケーションをとることができる。 □新生児に関わる多職種の立場を理解し、必要な情報交換ができる。 □カンファレンスに参加し、必要な情報提供をすることができる	□ケアの受け手の個別的なニーズに対応するために、その関係者と協力し合いながら多職種連携を進めていくことができる □ケアの受け手とケアについて意見交換できる □積極的に多職種に働きかけ、協力を求めることができる	□チーム医療・看護におけるリーダーシップを理解している。 □(チーム医療・看護における)リーダーとして連絡・報告・相談に対し適切に対応できる □新生児に関わる多職種と必要な情報交換を行い、看護方針を決定することができる □カンファレンスに参加し、必要な情報交換を行うことができる □積極的に多職種に働きかけ、協力を求めることができる □家族とケアについて意見交換ができる	□ケアの受け手がおかれている状況(場)を広くとらえ、結果を予測しながら多職種連携の必要性を見極め、主体的に多職種と協力し合うことができる □多職種間の連携が機能するように調整できる □多職種の活力を維持・向上させる関わりができる	□看護職間で連携して個別的な看護を実践するための調整を行っている □新生児と家族および周囲の人々がおかれている状況を広くとらえ、結果を予測しながら主体的に多職種と協力し合うことができる □多職種間の連携が十分に機能するよう、その調整的役割を担うことができる □関係者、多職種間の中心的役割を担うことができる □目標に向かって多職種の活力を引き出すことができる	□複雑な状況(場)の中で見えにくくなっているケアの受け手のニーズに適切に対応するために、自律的な判断のもと関係者に積極的に働きかけることができる □多職種連携が十分に機能するよう、その調整的役割を担うことができる □関係者、多職種間の中心的役割を担うことができる □目標に向かって多職種の活力を引き出すことができる	□新生児と家族および周囲の人々がおかれている状況を広くとらえ、結果を予測しながら多職種との連携において中心的役割を担うことができる。 □多職種がその専門性をそれぞれ発揮できるように調整できる。
意思決定を支える力	【レベル毎の目標】	ケアの受け手や周囲の人々の意向を知る	家族の意向を知る 新生児の立場にたって考えることができる	ケアの受け手や周囲の人々の意向を看護に活かすことができる	家族の意向を知り、チームメンバーと情報共有する 新生児の示すサインを看護に活かすことができる	ケアの受け手や周囲の人々に意思決定に必要な情報提供や場の設定ができる		ケアの受け手や周囲の人々の意思決定に伴うゆらぎを共有でき、選択を尊重できる	・新生児の示すサインをふまえ家族や周囲の人々の意思決定の過程を尊重する	複雑な意思決定プロセスにおいて、多職種も含めた調整的役割を担うことができる	
	【行動目標】	□助言を受けながらケアの受け手や周囲の人々の思いや考え、希望を知ることができる □新生児は自ら意思決定できない存在であることを理解する □その特性から代弁者としての役割の重要性を理解する。 □新生児を尊重した行動がとれる	□家族の思いや希望を聴くことができる □助言を受けながら新生児の示すサイン(Cue)に気づくことができる □新生児は自ら意思決定できない存在であることを理解する □その特性から代弁者としての役割の重要性を理解する。 □新生児を尊重した行動がとれる	□ケアの受け手や周囲の人々の思いや考え、希望を意図的に確認することができる □家族や周囲の人々の意向の違いを理解できる □ケアの受け手や周囲の人々の意向の違いを多職種に代弁できる	□家族の思いや考え、希望を意図的に確認することができる □家族の思いや考え、希望をチームメンバーに伝える □家族の思いや考え、希望を踏まえて看護を実践できる □新生児の示すサイン(Cue)に気づくことができる。 □新生児の示すサインを踏まえて看護を実践できる	□ケアの受け手や周囲の人々の意思決定に必要な情報を提供する □ケアの受け手や周囲の人々の意向の違いが理解できる □ケアの受け手や周囲の人々の意向の違いを多職種に代弁できる	□家族や周囲の人々の意思決定に必要な情報を提供できる □家族や周囲の人々の意向を多職種に伝え理解できる □ケアの受け手や周囲の人々の意向の違いを多職種に代弁できる □必要時支援を受けながら新生児の代弁者としての意見を述べるることができる	□ケアの受け手や周囲の人々の意思決定プロセスに看護職の立場で参加し、適切な看護ケアを実践できる	□家族や周囲の人々の意思決定プロセスに看護職の立場で参加し、適切な看護ケアを実践できる □ケアの受け手や周囲の人々の意思決定プロセスに看護職の立場で参加し、適切な看護ケアを実践できる □必要時支援を受けながら新生児の代弁者としての意見を述べるることができる	□適切な資源を積極的に活用し、ケアの受け手や周囲の人々の意思決定プロセスを支援できる □法的および文化的配慮など多方面からケアの受け手や周囲の人々を擁護した意思決定プロセスを支援できる	□法的 様々な視点も踏まえ、患者 家族の尊厳を尊重した意思決定が行えるよう、院内 院外の資源を適切に活用することができる。 □意思決定後のフォローの重要性を理解し、継続的に支援していくことができる。 □看護職 家族、他職種間の調整を行い、意思決定プロセスにおける中核的な役割をとることができる